

第五回新城薪能

能組

とき 平成六年八月二十日(土)
午後六時始
ところ 新城文化会館はなのき広場
雨天の場合は大ホール

入場無料

開会のことば

新城市文化協会会長

永田六兵衛

仕舞

七騎落

杉浦 右

西王母

芳賀 明子

月宮殿

太田 温子

連吟

小袖曾我

辻田充代 永田聡子
荒川享子 川村直子
水谷益子 竹下京子
加藤佳子 星野弘子
鈴木芳子 杉山斐子
鈴木富代 山斐子

火入式

新城市議会議長
新城市教育長

加藤 実
小林 芳春

仕舞

羽衣ウツセ
狸々

鈴木 忍
松野平美 加

地謡
松崎和夫
桜井盈附 瑠
鳥居俊男
福田一二彦
伊藤 智彦

連調

雲雀山

粟谷 明生
中村 邦生

小鼓
竹下京子 川村直子
星野弘子 永田聡子
鈴木芳子 水谷益子

ごあいさつ

新城市長

山本 芳央

仕舞

田村
葛城
羽衣

水谷 益子
杉山 斐子
星野 弘子

連吟

網之段

徳升 雅典

坂口 俊行
犬塚 晋

舞囃子

草紙洗小町

竹下京子

大鼓 清水利高
小鼓 永田六兵衛

笛 今泉英三

地謡
辻田充代 杉山斐子
荒川享子 星野弘子
加藤佳子 川村直子
鈴木富代 水谷益子
鈴木芳子 永田聡子

鈴木芳子

狂言二人袴

舞水谷至男
後見松井平
親男酒井
小林常宏
權田重絃

休憩(十分)

能經

シテ中嶋康夫

政

ワキ竹内三郎

大鼓清水高苗
小鼓森田收
今泉英三

後見栗谷明生
水谷清

地謡
鈴木崇史
栗谷浩之
太田康弘
栗谷能夫
田中洋二
中村邦生
竹内省吾

附祝言

(終了予定九時頃)

主催
新城市文化協会

後援
新城市教育委員会
新城市観光協会

あ ら す じ

狂言
二人袴ふたりばかま

大安吉日に舞入りするに当たり親子が先方へ挨拶に行く。袴が一着しかないの
で舞と親が交互に出ると兩人一緒に挨拶がしたいと言うので一着の袴を二枚にし
て前だけ当てて何喰わぬ顔で盃事や舞をする。

さて、其の首尾は？……

能
経つね 政まさ

京都の仁和寺、御室御所の守覚法親王は、琵琶の名手である平経政を、少年の
頃から寵愛されていました。ところが、このたびの一の谷での源平の合戦で、経
政が討たれたので、生前、彼にお預けになったことのある『青山』という銘のあ
る琵琶の名器を佛前に供え、管絃講を催して回向するようになり、行慶僧都に仰せつ
けになります。行慶は、管絃を奏する人びとを集めて法事を行ないます。すると
その夜更け、経政の亡霊が幻のように現れ、御吊いの有難さにここまで参ったの
であると、僧都に声をかけます。そして手向けられた琵琶をなつかしく弾き、夜
遊の舞をまっつて興じます。しかしそれもつかの間、やがて修羅道での苦しみにお
それれ、憤怒の思いに戦う自分の姿を恥じ、灯火を吹き消して闇の中に消え失せ
ます。

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではない。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎えの信仰行事であった。それに伴って行われる猿楽が「薪の猿楽」であった。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修しゆ二に会えに鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化した。初めは寺に所属する呪しよ師しが司っていたが、後猿楽者が代行するようになった。能楽が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野能として流行するようになった。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、流派を問わず誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇カ所程薪能が催されていますが、全部職分の先生方の演能であります。新城薪能だけが素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じて居ります。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方はお気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。
それぞれの向きにお世話を致します。